

氏名	石 川 純
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 871 号
学位授与の日付	昭和 52 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	MNNG 誘発ラット胃癌の間質に関する研究 とくに基底膜の態度について
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 寺本 滋 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

MNNG をラットに経口投与し、腺胃に生じた腫瘍性増殖病巣を異型性の程度により A, B, C の 3 型に分類し、基底膜の変化を中心に光顕的並びに電顕的に観察した。

異型性の軽度な病巣 A 型は粘膜下層までのものが多く、腺管周囲の fibroblast sheath および基底膜の形成は良好である。病巣 C 型は高度の異型性を有し、漿膜に達するものが多く、容易に癌と診断し得る。他の病巣 B 型は筋層や漿膜に達するものが多くなり、fibroblast sheath の形成は不良である。基底膜は、上皮と周辺の線維芽細胞等の状態により、形成不全のものから多層化を示す過形成まで種々の像が観察された。これらはヒト胃の低分化腺癌と類以し、たとえ漿膜に達していなくても癌と判定し得ると考えられる。長期飼育例には病巣 B, C 型のみならず A 型も多数存在する。基底膜の形成は上皮と間質、とくに線維芽細胞が関与している。間質側の種々の変化や多くの非上皮性腫瘍が発生したことにより、MNNG は上皮と間質の両者に作用しているものと推測される。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

ニトロログアニジン (MNNG) 投与によるラットの胃腺上皮の腫瘍性増殖を光顕的及び電顕的に追求したものであるが、上皮の組織型と、従来注目されるところの少かった間質、特に基底膜との関係について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。